

# オオアマドコロ

*Polygonatum odoratum var. maximowiczii*

ユリ科



オオアマドコロ

## 名前の由来

ヤマノイモ科のトコロに似た根茎が甘みを帯び（アマドコロ）、アマドコロより大きいことから名付けられた。トコロ(野老)は、そのひげのような根を老人のひげにたとえ、同じく長いひげを持つエビを「海老」と書くように、山にはえるために「野老」とされた。漢字名：大甘野老

## 形態的特徴

花茎は高さ60~100cmほどで、少し斜めに立ち、茎には稜角がある。葉に柄はほとんど無く、長楕円形、全縁で裏面は

白緑色。花は白く円筒形、葉腋にそれぞれ2~4個ずつ下向きに垂れ下がってつく。果実は黒く球形に熟す。

## 類似種と見分け方

ヒメイズイ、ワニグチソウ、ホウチャクソウ。  
オオアマドコロは上記3種よりも全体が大きく、茎も太い。ヒメイズイは茎が直立し、花は葉腋に通常1個ずつつける。ワニグチソウは花が葉腋に2個ずつつき、花柄には花に覆いかぶさるようにつく2枚の大きな包葉がある。ホウチャクソウの花は枝頂に1~3個つき、上部で枝を分ける場合もある。

これら3種の内、ホウチャクソウだけは毒草なのでオオアマドコロを山菜として採取する際には注意が必要。しかし若芽の段階では両種はよく似ており区別が難しい。オオアマドコロは若芽、地下茎ともに太いのが特徴。ホウチャクソウでは地下茎が肥大せず太いひも状になるので、確実に見分けるには根元の土を少しよけて地下茎の形状を見るのが良い。



オオアマドコロ。若芽は山菜



類似種、ヒメイズイ



類似種、ホウチャクソウ。毒草

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期		■										
結実期			■									

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ



## 生育環境・分布

林内に普通に見られる。肥沃でやや日当たりの悪いところに生育する。

**分布：**国外分布は、南千島・樺太・ウスリー。

国内分布は、北海道から本州北部。

北海道内分布は、全道。丘陵地や山地の林内に普通に見られる。

十勝地方では、林内に普通に見られる。



オオアマドコロ。群生している様子

## 生活史

**開花時期：**5月中旬～6月

**寿命：**多年草。

**開花までの年数：**不明



オオアマドコロの花



実をつけたオオアマドコロ

オオアマドコロの実

## 他生物との関わり

花には虫が訪れる。

## 興味深い話

■オオアマドコロは茎の上部には雄しべのみをもつ雄花を、下部には雄しべと雌しべをもつ両性花をつけ、果実がつく時期によく観察すると茎の上部にはほとんど実がついていないのがわかる。これは茎の上部では果実をつくるための養分が不足する傾向があり、この位置に両性花をつけても実が大きくなれず雌しべが無駄になってしまうため、より多くの花粉をばらまき、なおかつ養分を効率よく使って実を肥大させようとする、オオアマドコロの繁殖戦略だと考えられている。

■山菜としては、20～30cmほどに伸びた若芽が、特有の甘味があり、舌ざわりもよく、いろいろな料理法で楽しめる。多数採取することは控え、特に根茎は取り過ぎないように注

意する。根茎を乾燥させたものは滋養強壮に効くとされる。

■足寄（アイヌ文化では釧路地方の文化圏）などのアイヌ語では「エトロラッキク」という。



オオアマドコロ。食べごろの若芽

## 配慮事項

生育している環境全体が重要である

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ

### 参考文献

「改訂版 牧野新日本植物圖鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅰ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「新版 北海道山菜図鑑」佐藤孝夫・小林隆正・久保秀樹、亜璃

西社 2002

「森林で遊ぼうシリーズ3 おもしろい草花の話」北海道立林業試験場 北海道林業改良普及協会 1998

「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976